



三江線沿線マップ（安芸高田市を中心とした区間）

9月～12月限定で、列車内での神楽講座や地産品の振る舞いを楽しむことができる三江線特別列車。各沿線市町で1回ずつ、運行されます。安芸高田市の特別列車は、11月23日（月・祝）に運行されます（写真は昨年の様子）。



車窓からは美しい景色を眺めることができます。



三江線全通を記念して運行された記念列車（昭和50年8月31日 口羽駅）
提供：三江線活性化協議会

1km）が全線開通しました。

三江南北両線を結ぶ浜原～口羽間（29・6km）が昭和41年に工事着手、昭和50年に開通。これにより三江線 江津～三次間（108・

1km）が全線開通しました。

三江南線は三次～口羽間（28・4km）となりました。戦争の拡大に伴い、一旦工事は中止されましたが、終戦後再開され昭和30年に開通。その後、式敷～口羽間が昭和38年に開通し、

三江南線は三次～口羽間（28・4km）となりました。

三江南線は、三次～式敷間を昭和11年に着工。戦争の拡大に伴い、一旦工事は中止されましたが、終戦後再開され昭和30年に開通。その後、式敷～口羽間が昭和38年に開通し、川戸間は、昭和5年に開通。その後次々と開通区間を広げ、石見江津～浜原間が昭和12年に開通し、石見江津～浜原間（50・1km）が全通しました。

三江線の歴史

広島県と島根県を結ぶ、108.1kmを走る三江線。

昭和5（1930）年の石見江津～川戸間開業以降、当時は水運のみに頼っていた奥部から産出される林産物は、鉄道等の大量輸送に切り替えられ、交通機関の恩恵を受けることの比較的少なかった江の川沿線地域の産業、文化の発展に大きく寄与しました。

現在は、沿線住民による通勤・通学の手段として利用されています。しかし、人口減少のため、日常生活での利用が低下していることが課題としてあげられています。今後は、雄大な自然と四季折々の風景を楽しむことのできる鉄道・三江線をPR、観光での利用も促進し、地域活性化につなげる必要があります。

JR三江線全線開通40周年

雄大な自然を駆け抜ける

リアル宝探し 江の川不可思議調査隊 ～神々守る水竜の恵み～

三江線沿線各市町に隠された「宝箱」を、3つの手がかりを元に突き止めるという「リアル宝探し」が、11月30日（月）まで開催されています。6市町に隠された宝箱を探す冒険に、親子で、ご夫婦で、参加してみませんか？

～参加者の声～



川上 たかしさん（北広島町在住）
ゆいちゃん（10歳）
あいちゃん（7歳）

子どもの頃に三江線に乗ったことを覚えています。8月中旬から挑戦中です。意外と難しいですが、楽しんでいます。



横山 ミキさん（吉田町在住）
史佑ちゃん（10歳）
史玲ちゃん（6歳）

範囲が広く、地域の方に聞きながら宝箱を探していました。子どもたちと一緒に楽しめました。

★イベントについて、詳しくは江の川不可思議調査隊ホームページ（<http://www.takarush.jp/promo/sankousen/>）をご覧ください。



（左写真）（上）この橋の向こうにある神社に、手がかりが隠されているかも？



（下）宝箱を探し当ててキーワードを手に入れたら、発見報告所でスタンプを押してもらえます

全線開通40周年記念事業

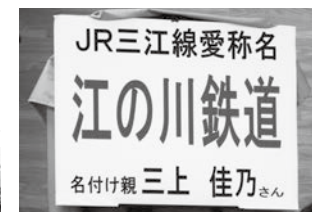
8月30日（日）、浜原隣保館（島根県邑智郡美郷町）で記念式典が開催され、公募により決定した三江線愛称名「江の川鉄道」の発表が行われました。当日は、記念ヘッドマークを装飾した記念列車「江の川号」の運行が行われ、浜原駅での来賓、主催者によるテープカット後、江津方面から三次方面へ出発。また、三江線写真の展示や沿線市町の特産品販売コーナーが設けられた「三江線まつり」も開催され、多くの沿線住民や三江線ファンが訪れていました。



記念列車「江の川号」



来賓及び主催者によるテープカット



（右写真）（上）三江線の愛称名を式典で披露（下）三江線を走る神楽ラッピング列車



JR三江線全線開通40周年記念 関連イベント